

令和7年度第1回富士見市いじめのない学校づくり委員会
会議録要旨

【日時】 令和7年6月23日（月） 14：30～16：30

【開催場所】 富士見市教育委員会 会議室

【出欠状況】

小林	塚田	森田	山岸	長瀬
○	○	○	○	○

【事務局】

課長 教育相談室長 指導主事1名

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ及び委嘱状交付
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
 - （1）令和6年度 富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
 - （2）いじめのない学校づくり子ども会議について
- 5 議 題
 - （1）いじめの未然防止について
 - （2）いじめの重大事態への対応について
- 6 事務連絡
 - ・今年度の会議日程について
- 7 閉 会（副委員長）

【報告】

(1) 令和6年度 富士見市立学校におけるいじめ等の状況について

【事務局】 暴力行為は小学校で減少した。中学校は、横ばいである。小学校で減少した背景には、発達特性のある子に対する医療連携の取組みがある。

いじめの認知件数については、小学校で増加。中学校は、横ばいである。小・中学校ともに、学年が上がるにつれて減少傾向である。不登校児童生徒は、小学校低学年から高学年になるにつれて増加し、中学校でさらに増加している。

【委員】 保護者が、いじめに気付く方法として、本人の様子の変化、SNSの対応の変化などが考えられる。今は、保護者同士がSNSでつながっていて、親に子どもが話をしなくても、把握していることが多い。

【委員】 暴力件数が減ると、自殺が増える傾向にある（内にため込んでしまうため）。近年、大学生の自殺は増えていないが、現在若年層で、過去最多となっている。年齢が幼いと、親の不安の影響を受けやすいということも自殺の増加と関わりがあると言える。

【委員】 ストレスがかかった時の反応として、主に2つのパターンがある。1つ目が怒り、2つ目が沈黙である。大人しい子は、内側にため込んでしまうので、気持ちを吐き出させる機会を設けるなど、注意が必要である。

【委員】 いじめの認知が多い月は、アンケートなどを実施したことで、学校が認知をしやすくなった可能性がある。

【委員】 いじめは積極的に認知し、重く受け止めていくことが大切である。

(2) いじめのない学校づくり子ども会議について

【事務局】 令和7年度もいじめのない学校づくり子ども会議を実施する。「まわりで起きるいじめをなくすためにできることを考える」をテーマに子ども宣言について振り返り、児童生徒が主体的に考えていく。

【事務局】 すべての児童生徒に当事者意識をもたせることが大切である。

【議事】

(1) いじめの未然防止

【事務局】 授業の充実（できる・わかる）、肯定的な言葉かけ、いじめを許さない雰囲気づくり、相談BOX、ICTの健康観察機能、アンケート、アセス（学校環境適応感尺度）、異学年交流・異校種交流（交流会、レク、あいさつ等）、ピア・サポートなどの方策がいじめの未然防止につながると考える。本市で行っている、いじめのない学校づくり子ども会議での協議を受け、児童生徒が主体となり、各校で取組んでいるものも未然防止につながっている。

【委員】 アセスの生かし方が、担任や学校によって変わるのではないか。

【委員】 アセスの指標から、具体的な取組を考えてくことが大切である。

【委員】 アセスメントのとり方について、学校間で違いがあることは課題である。

【委員】 いじめの未然防止には、一人一人の自己有用感を高めることが大切である。

【委員】 主体性を育てることも大切。自分で選択して、行動していくことが重要である。

【委員】 そのために先生が、児童生徒に対して、「ありがとう」と言える機会を増やすことが必要である。

【委員】 先生方が、児童生徒をよく見ていてくれることが大切である。

(1) いじめの重大事態の対応について

【事務局】 昨年度、市内で3件発生。2件は終結。もう1件は、終結の見込みである。今年度になり、今のところ新規の重大事態はない。現在、多くのいじめに関わっているSNSトラブルを減らす手立てを示したい。その1つとして、ネットトラブルの事例を知ることが、抑止につながると考える。当事者意識を高め、質の高い第三者を育てていきたい。

【委員】 SNSはテンポが速いため、よく考えず、反射的に返信をしてしまうので、トラブルに発展しやすい。

【委員】 2人の間だけではただのケンカでも、拡散されることでいじめになる。

【委員】 SNSのように、文字だけのコミュニケーションは、意図を正確に伝えることが難しいことを教える必要がある。

【委員】 SNSトラブルに関する事例の紹介は、やはり必要。保護者も巻き込みながら、自分だったら、どうするかを考えることが大切である。

【委員】 ネットモラルを学習する場は、探すとたくさんある。

【委員】 先生方のネットモラルの重要性に対する意識を高くもってもらいたい。また、児童生徒との日頃の関係づくりが大切である。